

〈診療部門〉

- ・ 内分泌・糖尿病内科
- ・ 腎臓内科
- ・ 循環器内科
- ・ 消化器内科
- ・ 呼吸器内科
- ・ 脳神経内科
- ・ 外科
- ・ 脳神経外科
- ・ 整形外科
- ・ 呼吸器外科
- ・ 小児科
- ・ 産婦人科
- ・ 泌尿器科
- ・ 眼科
- ・ 耳鼻いんこう科
- ・ 放射線診断科
- ・ 麻酔科
- ・ 歯科口腔外科

内分泌・糖尿病内科

1 医師紹介

診療部長 滝 克己
 医師 犬飼 峰彦
 非常勤 石井 怜央

2 令和5年度総括

紹介患者のスムーズな受け入れや、退院後に開業医へ逆紹介を行い、病診連携に努めていた。

3 令和5年度診療実績

内分泌学的な負荷試験や画像所見などによる診断、甲状腺穿刺吸引細胞診などによる精査を行い、糖尿病については血糖コントロールや糖尿病療養指導士と共に患者教育も行っている。

上記を近隣の病院や開業医と病病あるいは病診連携行っている。

また、当科での治療や検査が困難な症例は、山梨大学 糖尿病内分泌内科などと連携し精査加療を行っている。

4 令和6年度活動目標

- (1) 開業医との病診連携のさらなる充実
- (2) 糖尿病学会認定施設の取得

5 学術活動

- (1) 内科学会関東甲信越地方会での症例報告
- (2) 糖尿病学会での学会発表 2 報
- (3) 内分泌学会での学会発表 1 報

腎臓内科

1 医師紹介

医科部長 廣瀬 真
 医科部長 宮下 和久
 医師 高橋 佑典(2024 年 4 月 1 日～9 月 30 日)

2 令和5年度総括

山梨県 CKD 病診連携システムにしたがって、病診連携の推進に努めた。

同システムの取り決めに従い、精査を要する疾患や、近い将来透析が必要となる患者・定期的に専門医の診察を要する患者以外はかかりつけ医にお返ししている。

昭和大学藤が丘病院腎臓内科から専攻医の研修を受け入れ、入院加療、透析管理、症例カンファレンスなどを行った。

3 令和5年度診療実績

腎生検	8 例
血液透析導入	例
血液透析	11330 件
血漿交換・吸着浄化・腹水処理	39 件
持続的血液濾過透析	35 件

4 令和6年度活動目標

- (1) 開業医との病診連携の更なる充実を図る。
- (2) 院内の他科との連携の更なる充実を図り、当院に通院および入院されている方の腎機能の維持に努める
- (3) 症例カンファレンスを継続し医療の質の向上を図る
- (4) 市民講座などを行い CKD についての知識を普及・啓蒙していく

循環器内科

1 医師紹介

医科部長 浅野 冬樹
主任医長 若月 大輔
医師 安部 聡美

2 令和5年度総括

虚血性心疾患患者の検査及び必要に応じて最適な治療を行うことに重点をおきました。
また、糖尿病、高血圧、冠動脈硬化症患者さまなど高リスク患者さんの潜在的な心臓病の発見及び治療。

3 令和5年度診療実績

心エコー 999回（全科総回数 2115回）
トレッドミル試験 188回
心臓カテーテル検査 113回
心臓カテーテル治療 90回
下肢血管カテーテル治療 11回（心臓血管外科として）

4 令和6年度活動目標

- (1) 地域の急性心筋梗塞患者の受け入れ、迅速な対応、治療。
- (2) 山梨大学、県立中央病院など高度治療機能病院との連携を深めて最善の治療を患者様に提供することを目標にします。
- (3) TAVI Mitra Clip 重症弁膜症に対するカテーテル治療が山梨大学で可能になり、循環器、心臓血管外科教授カンファレンスを月2回開催し対応していきます。
- (4) PCI 治療件数を治療件数 100 件、合併症 0 件
- (5) 山梨大学病院、榑原記念病院などにより連携をとり虚血性心疾の外科治療を含めて充実していくことが目標です。

5 学術活動

たこつば型心筋症は高齢者のミネラルコルチコイド反応性低ナトリウム血症による重度の低ナトリウム血症によって発症した。
若月大輔/European Heart Journal 掲載

消化器内科

1 医師紹介

医科部長 山崎 貴久
医師 坂 隆寛
医師 小澤 朋弘
非常勤医師 高橋 正一郎

2 令和5年度総括

開業医との円滑な紹介・逆紹介に努めた。緊急疾患・重症疾患は速やかな入院を行い、病状に応じた専門的医療を行った。必要な場合は、高次医療病院や近隣の病院と相互に転院や紹介を行った。
内視鏡センターの改装・拡張に伴い、検査件数の増加に対応した。
研修医や専攻医を受け入れ、育成に努めた。

3 令和5年度診療実績

消化器疾患は、血液検査、CT・MRI・超音波検査などによる画像所見、内視鏡検査、組織生検などにより診断を行っている。内科的な治療、また内視鏡的な処置などを行い、必要時に外科と連携し加療している。
消化器内科全体、内科外科合同、内科全体でそれぞれ定期的にカンファレンスを行い、診療の質の向上、および医師の育成に努めた。
健診や診療における内視鏡を始めとする検査件数の増加に対応し、時間外検査の減少に貢献した。

4 令和6年度活動目標

開業医との地域連携を中心に、近隣の二次病院・高次医療機関との病診連携の向上に努める。
当院でもレスパイト入院が始まったため、適宜対応していく。
引き続きカンファレンスの定期的な継続により、医療の質の向上、研修医・専攻医の育成に努める。

呼吸器内科

1 医師紹介

医科部長 渡邊 一孝

2 令和5年度総括

呼吸器疾患（肺炎・胸膜炎、喘息、肺気腫、間質性肺炎、肺癌）に対して専門的な検査を行い、開業医と円滑な紹介・逆紹介に努めた。必要場合は山梨大学や県立中央病院や静岡県立がんセンターへ速やかに紹介を行った。

健診の胸部 X 異常などに対してわかりやすい説明を行った。

肺癌が疑われる場合や胸膜炎・膿胸の場合には呼吸器外科と連携しながら気管支鏡や外科的生検を行い診断、治療を行った。山梨赤十字病院とも放射線治療や重症喘息など連携して診療に当たった。

3 令和5年度診療実績

入院患者数は月 20 人程度であり肺癌（61）胸膜中皮腫（3）間質性肺炎・過敏性肺炎（18）COPD(9)気管支喘息（5）肺炎（23）誤嚥性肺炎（26）結核・非結核性抗酸菌症（7）胸膜炎・胸水貯留（15）COVID19（24）〔（ ）は実数〕であった。

外来は週 2 回（火・木）で 25 人/日程度、紹介患者 4 人/日であった。

4 令和6年度活動目標

- (1) 地域中核病院として山梨赤十字病院呼吸器内科とともに丁寧で安心できる治療を継続していく。
- (2) 禁煙活動を計画する。
- (3) R6 年度に喘息検査の一酸化窒素測定器が導入予定である。

5 学術活動

- (1) 富士吉田市立看護専門学校 授業：病態学 1（呼吸）7 コマ
- (2) 院内がんセンターボード：肺癌治療での免疫チェックポイント阻害剤による副作用（irAE）2024 年 3 月 6 日

脳神経内科

1 医師紹介

医長 天野 稜大

医師 小尾 俊敦

2 令和5年度総括

- (1) 回復期リハビリテーション病棟を有効利用し、神経筋疾患の患者への加療とリハビリテーションを重点的に施行した。
- (2) EUROIMMUNE 社の tissue-based assay kit(Rat hippocampus, cerebellum, NMDAR transfected cell)を導入し、自己免疫性脳炎の診断を迅速に行えるよう検査態勢の拡充を行った。
- (3) 重症筋無力症や視神経脊髄炎を初めとした神経免疫疾患の治療に力を入れ、様々な分子標的薬の使用を開始した。

3 令和5年度診療実績

- (1) 入院患者数

新入院	退 院	在院患者	在院延日数	一日平均
216	216	221	6,959	19.01

- (2) 外来患者数

初診	再 診	合 計	実患者数
156	3,598	3,754	2,128

- (3) 主な症例

DPC 名称	患者数
脳梗塞（脳卒中発症 3 日目以内、かつ、JCS10 未満）手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 - 4 あり 定義副傷病なし 重症度等発症前 Rankin Scale 0、1 又は 2	2,128
てんかん 手術なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	10
脳脊髄の感染を伴う炎症 手術なし 手術・処置等 2 なし 重症度等 15 歳以上	9
運動ニューロン疾患等 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	8
一過性脳虚血発作 手術・処置等 2 なし	7
パーキンソン病 手術なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	7

4 令和6年度活動目標

引き続き、神経筋疾患への対応と紹介患者を中心とした地域の神経筋疾患への需要に対応していく。

5 学術活動

【英語論文】

- (1) Azusa S, Ryota A, Ayumi U, et al. Effectiveness of Methylprednisolone against COVID-19-related Guillain-Barre Syndrome: A Single Case Report, Neuroimmunology Reports, 2024
- (2) Ryota A. The time course of complement blockage by ravulizumab in neuromyelitis optica spectrum disorder, Neurology and Clinical Neuroscience, 2024

外 科

1 医師紹介

院長 松田 政徳
 副院長 本田 勇二
 医科部長 小俣 秀雄
 医科部長 原 倫生
 主任医長 若菜 弘幸

2 令和5年度総括

- (1) 平成5年度には、若菜弘幸先生、水上瑛仁先生（平成5年度末に退職）を迎え、医師会からの紹介患者を含め、今まで以上に、病院で行っている診療内容の情報を公開して、患者数増加に繋げていきたい。
- (2) 医療安全に重点を置き、患者さんの満足度が上がる医療の提供を行え、重大な事故の発生も無かった。

3 令和5年度診療実績

- (1) 手術件数 () 内は鏡視下
 胃 9 (8) 大腸 28 (22) 胆摘 (20) ヘルニア 59 (32) 乳腺甲状腺 23/10 など
- (2) 内視鏡検査（治療内視鏡を含む）
 上部消化管内視鏡検査 700 件以上
 下部消化管内鏡検査 900 件以上

4 令和6年度活動目標

- (1) 高い根治性を維持し、より低侵襲で安全な手術を行うため、学会等での情報収集により、最新の手術手技の導入に努めたい。
- (2) 医師会の先生からの紹介に対して、検査が遅延せずに行われ、患者さんの満足度が落ちないような医療連携を行っていききたい。当院では外科でしか行っていない、共同診療も医師会の先生方の協力の下、継続していきたい。
- (3) 医師会の先生方と協力して、地域連携パスの運用に積極的に協力していきたい。
- (4) 患者さんにより円滑な医療提供を行うため、外科スタッフで協力していきたい。

脳神経外科

1 医師紹介

医科部長 今江 省吾

医師 今村 繭子

2 令和5年度総括

地域の基幹病院としての役割を果たすべく、通常外来診療に加えて、地域開業医からの紹介患者、時間外救急患者について可能な限り対応を行ってきた。特に、重症脳卒中、頭部外傷については、24時間受け入れ態勢を整え、医療の質を落とす事なく、手術を含めた診療を行ってきた。

急性期の治療は主にICUでの管理を行い、一般病棟での治療に引継ぎ、必要に応じて維持期施設への連携を行うことで、効率的かつ最善の医療を提供することが出来たと考えている。

3 令和5年度診療実績

入院患者総数	146
腫瘍	13
脳血管障害	77
外傷	52
脊椎脊髄	2
その他	2

手術総数	83
脳腫瘍総数	6
摘出術	5
経蝶形骨洞手術	1
脳血管障害総数	10
破裂動脈瘤	3
未破裂動脈瘤	2
脳動静脈奇形	1
バイパス手術	2
高血圧性脳内出血（開頭血腫除去）	2
外傷総数	34
急性硬膜外血腫	1
急性硬膜下血腫	2
減圧開頭術	1
慢性硬膜下血腫	30
水頭症総数	14
脊椎・脊髄手術	1
血管内手術総数	16
動脈瘤塞栓術（破裂動脈瘤）	1
閉塞性血管障害の総数（うちステント使用例）	13(3)
その他	2
その他	2

4 令和6年度活動目標

- (1) 外来及び入院診療収益の拡大
- (2) 脳神経外科外来患者数の増加
- (3) 手術症例数増加を目標とする
- (4) 手術症例のクリニカルカンファレンスの開催
- (5) 難易度の高い手術については大学病院及び関連病院と連携して治療に当たる。

5 学術活動

今村 繭子, 田村 郁, 山本 浩平, 稲次 基希, 大内 史彦, 田中 洋次, 前原 健寿
皮膚 T 細胞リンパ腫の中樞神経浸潤と考えられる脳内多発 T 細胞リンパ腫の一例
第 150 回日本脳神経外科学会関東支部学術集会
2023 年 4 月 8 日 東京

今村 繭子, 田村 郁, 山本 浩平, 稲次 基希, 田中 洋次, 前原 健寿
皮膚 T 細胞リンパ腫の中樞神経浸潤と考えられる脳内多発 T 細胞リンパ腫の一例
第 41 回日本脳腫瘍病理学会
2023 年 5 月 27 日 東京

整形外科

1 医師紹介

副院長 天野 力郎
診療部長 渡邊 長和
医科部長 近藤 充徳
主任医長 藤田 康稚
主任医長 佐藤 弘直
専攻医 矢野 明彦
専攻医 久保川 将志

2 令和 5 年度総括

山梨大学脊椎班から藤田先生をスタッフに迎え、今まで大学病院に紹介していた患者さんも当院で手術からリハビリまで一貫して治療が出来るようになり、患者さんの利便性が向上するとともに病院収益の改善に貢献できた。

また、山梨大学から専攻医 2 名を受け入れ、近藤先生を中心に外傷などの実践的医療を無事に教育することができた。

3 令和 5 年度診療実績

手術件数 506 例（全身麻酔 415 例 腰椎麻酔 19 例 ブロック局所麻酔 72 例）
外傷 333 例（上肢 155 例 下肢 178 例） 人工関節置換術 THA19 例 TKA21 例
脊椎 107 例（頸椎 31 例 胸椎 11 例 腰椎 62 例） 経皮的椎間板内酵素注入療法 3 例
ACL 再建 7 例 その他 19 例

4 令和 6 年度活動目標

高齢者の健康寿命の延伸に向け、大腿骨頸部骨折の 48 時間以内の手術を目指すとともに骨粗鬆症に伴う脆弱性骨折そのものを減らすため、開業医（かかりつけ医）と連携し骨粗鬆症治療を途切れることなく継続することや転倒予防教室開催などリハビリスタッフや看護師、薬剤師などとも協力し地域住民の健康増進に寄与していきたい。

また、骨折などの 2 次救急患者や医師会からの紹介患者を積極的に受け入れ、地域住民が安心して暮らせるように医師会との病診連携を促進していきたい。

将来の地域医療を担う専攻医の教育も積極的に行い、持続可能な質の高い医療の提供を目指したい。

5 学術活動

【学会発表等（令和 5 年度）】

- (1) 久保川 将志 骨形成不全症が疑われた両側同時発生の肘頭骨端性損傷の一例 第 64 回関東整形災害外科学会
- (2) 藤田 康稚 骨粗鬆症の診断と治療について 富士五湖薬剤師会 第 80 回研修会
- (3) 藤田 康稚 当院における骨粗鬆性椎体骨折の治療方針 Osteoporosis Web Symposium

呼吸器外科

1 医師紹介

主任医長 國光 多望

2 令和5年度総括

呼吸器内科と連携しながら、肺癌や縦隔、胸膜疾患の診断、治療を行った。
特発性、外傷性の気胸、血胸に対して必要な外科的治療を行った。

3 令和5年度診療実績

肺癌や気胸などの呼吸器疾患と、縦隔、胸膜疾患の診療を行った。

総手術件数	29 件
内訳	肺癌・転移性肺癌 14 件
	気胸・血胸 11 件
	縦隔・胸膜疾患 4 件

4 令和6年度活動目標

安心して治療を行える様に、以下の事項を行っていく。

- (1) わかりやすい説明、患者の希望や生活に沿った治療方針の提案と実行
- (2) 複雑化する肺癌治療の知識と技術の習得
- (3) 他科やスタッフとの連携強化

5 学術活動

【学会発表】

肺癌術後の経過観察中に縦隔型気管支動脈瘤を発症した1例 第40回日本呼吸器外科学会学術集会

小児科

1 医師紹介

医科部長 中村 誠
主任医長 西嶋 敏恵
主任医長 牧野 耕一
医師 坂本 大聖
非常勤医師 小鹿 学（一般外来）、金村 英秋・星野 廣樹（神経外来）、後藤 美和（腎臓外来）
矢ヶ崎 英晃・成澤 宏宗（内分泌外来）、長谷部 洋平（心臓外来）

2 令和5年度総括

- (1) 紹介患者の受け入れなど病診連携に努めた。
- (2) 富士東部地域の小児二次輪番病院として小児救急医療に寄与した。
- (3) 乳幼児健診への参加や予防接種を通して小児保健の向上に寄与した。
- (4) 学会、研修会、講演会に参加し診療に還元した。

3 令和5年度診療実績

年間外来数：6,236（述べ人数）、年間入院数：347（実人数）

外来では、神経、腎、内分泌、循環器など専門分野の診療に加えて、感染症やアレルギー疾患など一般診療、近年増加傾向の肥満症や心身症の診療を行っている。また、予防接種、生後1ヶ月の検診等も実施している。

入院では小児内科的疾患の急性期治療に加え、鎮静下でのMRI検査や脳波検査、食物アレルギーの経口負荷試験や成長ホルモン分泌負荷試験等を実施している。

4 令和6年度活動目標

これまでと同様に知識・技術の向上を目指し、エビデンスに基づいた標準的な医療を提供する。乳児健診や予防接種を通じて育児支援を積極的に行う。重い病気を乗り越えたお子さんの在宅医療支援を進める。成人期に達する小児慢性疾患患者さんの円滑な成人医療への移行をサポートする。

5 学術活動

【講習会】

- (1) 山梨県新生児蘇生法普及事業 新生児蘇生法「B」コース講習会、令和5年7月、富士吉田市

【国内学会】

- (1) 保坂郁実、牧野耕一、西嶋敏恵、中村誠。急性胃腸炎に伴い発症したループスアンチコアグラント陽性・低プロトロンビン血症症候群の一例。第161回日本小児科学会山梨地方会、令和5年9月9日、甲府市
- (2) 坂本大聖、牧野耕一、西嶋敏恵、中村誠。希釈した粉ミルクによる水中毒で無熱性痙攣を来した幼児例。第162回日本小児科学会山梨地方会、令和6年3月9日、都留市

産婦人科

1 医師紹介

診療部長 川島 茂樹
 医長 相澤 恵
 医師 平岡 望
 医師 深田 直希

2 令和5年度総括

社会全体の傾向であるが、分娩数の減少が著しく産科の入院数が減っている。専門性の高い病床運営が困難となっている。

以前より人材確保が困難な状況が続いているが分娩を扱う限りは時間を問わず一定数以上のスタッフの確保が必要であり、働き方を改善必要に迫られた。

3 令和5年度診療実績

分娩数 243 例 帝王切開 54 例 内視鏡による子宮全摘 5 例

開腹による子宮全摘を含む手術症例 15 例、子宮筋腫・付属器の手術 8 例

内膜ポリープなどに対する、子宮鏡などの手術 15 例

上記以外に、円錐切除・子宮頸管縫縮・子宮脱などの手術を行った。

切迫早産に対するニフェジピンの使用や、子宮鏡による組織回収システムなど新たな治療法に対応を進めている。婦人科悪性疾患は、子宮内膜癌・子宮頸癌の治療をおこない、卵巣癌は治療の細分化に伴い高次医療施設と連携し対応した。

4 令和6年度活動目標

少子化に伴い分娩数の減少が著しいが、個々の症例に求められる内容は増えている。社会の要望に応えるべく、また将来的な分娩施設の重点化に対応できる体制を構築する。婦人科腫瘍は近年治療の細分化しており、高次医療施設と連携し治療を行う。内視鏡・子宮鏡手術などの症例を充実させる。

泌尿器科

1 医師紹介

医長 高橋 宣弘
 医師 葛西 義史
 医師 望月 恵音
 医師 大塚 礼嗣

2 令和5年度総括

2020年に手術支援ロボットであるダ・ヴィンチを導入しロボット支援下手術を開始した。現在は前立腺癌に対する前立腺全摘除術と腎癌に対する腎部分切除術の2つの術式を行っており、順調に症例を重ねている。さらに、今後は腎摘除術や膀胱全摘除術などの新しい術式も順次開始していく予定である。

また、前立腺肥大症に対する低侵襲手術を行うために、2020年にGreenLight XPSを導入して前立腺レーザー蒸散術（PVP）を開始、2022年にはより低侵襲な術式である前立腺吊上術（PUL）と前立腺水蒸気治療（WAVE）を開始した。これら3つの術式すべてが山梨県内で唯一当院のみで施行可能であることから、最近は遠方からの紹介も増えてきている。

そして、2023年4月から泌尿器科医が3人から4人体制に増えたことで、より多くの手術や外来業務に対応することができるようになった。

3 令和5年度診療実績

外来患者数 11,466 (延べ人数)

手術実績 全手術件数 340 件

主な内訳 ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術 (RARP) 32 件
 ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術 (RAPN) 5 件
 その他の腹腔鏡下手術 (腎摘、腎尿管全摘など) 9 件
 経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT) 84 件
 経尿道的前立腺レーザー蒸散術 (PVP) 53 件
 経尿道的尿路結石破碎術 (TUL) 62 件
 その他 95 件

4 令和6年度活動目標

2024 年から尿路結石破碎術に用いる新規レーザーを導入したため、結石手術の件数を増やしていきたいと考える。また、膀胱癌に対する光力学診断 (PDD) を用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術を開始する予定であり、今後も積極的に新しい治療法を取り入れていきたいと考える。

富士・東部地域の中核病院として、地域の皆様に質の高い泌尿器科診療を提供できるように山梨大学との連携を強化するとともに研究会参加や学会発表などにも積極的に取り組んでいく。

5 学術活動

- (1) 日本泌尿器科学会 総会 参加・発表
- (2) 日本泌尿器科学会 東部総会 参加・発表
- (3) 日本泌尿器科学会 山梨地方会 参加・発表 など

眼 科

1 医師紹介

医長 岡田 洋介

医師 大塚 優 (R5 年度で異動)

非常勤医師 早田 光孝 (昭和大学眼科)

安田 健作 (R5 年度で退職)

2 令和5年度総括

手術待機日数の短縮を目標とし、業務時間内に終わらせる事が可能な限り執刀数を増やし、努力した。しかしながら、コロナ禍で受診を控えていただろう患者さんの受診も増え、新規手術も増えていくため、手術待機日数は横ばいであった。外来の待機時間減少を目的に、外来枠を増設した。

3 令和5年度診療実績

眼科処置 計 1029 件

(抗 VEGF 硝子体内注射 778 件、網膜レーザー処置 92 件、涙道処置 46 件 後囊 YAG 切開 80 件 etc..)

眼科手術 計 1372 件

(白内障手術 1189 件、外眼部手術 48 件、硝子体手術 69 件、緑内障手術 4 件 etc..)

4 令和6年度活動目標

題は、手術の待機日数超過、外来の待ち時間超過である。

手術待機日数の超過は、病床数や人員など院内の状況と、働き方改革の施行の影響もあり、短縮させることは当科だけの課題ではなく難しいと考える。外来の待ち時間については、来年度は検査技師の人員も増える予定であり、検査枠や診察枠の見直しを行うことで、多少は短縮できると思われる。引き続き取り組んでいく。

耳鼻いんこう科

1 医師紹介

医長 小佐野 雅識
医師 丹澤 雄一朗

2 令和5年度総括

- (1) 丁寧な診療を心がけ、それを遂行できた。
- (2) 紹介患者の受け入れなど開業医との病診連携に努めた。
- (3) 学会、講習、勉強会に参加し、診療に還元した。

3 令和5年度診療実績

- (1) 延べ入院患者数 1,150 名
- (2) 延べ外来患者数 7,874 名
- (3) 手術数 134
(内訳)
耳科手術（鼓膜切開術 鼓膜チューブ留置術等） 16 件
鼻科手術（内鏡視下鼻内手術等） 36 件
咽頭喉頭手術（扁桃摘出術 アデノイド切除術 喉頭微細手術等） 63 件
頸部手術（大唾液腺手術、気管切開等） 19 件

4 令和6年度活動目標

今までと同様に知識・技術の向上を目指し、診療に還元することを目指す。開業医との病診連携を引き続き行っていく。また耳鼻咽喉科関連領域（摂食嚥下・栄養サポート等）のカンファレンス等積極的に参加し、日常診療に還元する。

5 学術活動

- (1) 第40回日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会 山梨県地方部会学術講演会 座長 小佐野雅識
- (2) 第48回全国身体障害者福祉医療講習会・第28回補聴器キーパーソン全国会議 参加
- (3) 2024年第1回NST医師・歯科医師教育セミナー 参加

放射線診断科

1 医師紹介

医科部長 山本 仁

2 令和5年度総括

当科では各々の症例に対して最適化されたCT・MRIを撮影・撮像して三次元再構成像を含めた有用な画像を作成・提供し、画像診断報告書を作成している。画像診断では炎症性病変や良・悪性腫瘍、外傷、奇形等の多岐にわたる疾患がその対象となる。
また院内各科との連携の他にも、他施設から持ち込まれた症例の画像診断に関するコンサルテーションも行っている。
この他、地域医療機関からのCT・MRIの共同利用も受け付けており、検査終了後に画像診断報告書を迅速に作成し、画像データとともに提供している。

3 令和5年度診療実績

主に稼働している検査装置はRevolution GSI（GE社製64列CT）、Discovery MR750W（GE社製3T MRI）、SIGNA EXCITE plus（GE社製1.5T MRI）であり、令和5年度の検査実績はCT検査が9,601件、MRI検査が4,925件で、令和4年度と比べてCT検査数が175件、MRI検査数が123件の微増であった。

4 令和6年度活動目標

今後も画像診断部門の充実と高い精度管理を図り、より臨床に役立つ画像情報をタイムリーに提供して臨床に役立つ情報を発信し、またCT・MRIを用いた「がん検診」の充実も図っていきたい。

麻酔科

1 医師紹介

医科部長 市川 学
医師 深澤 恵莉

2 令和5年度総括

酔管理は近年大きく変化を遂げており、安全に関する指針も以前より厳格なものとなっている。令和5年度に於いては手術室各部屋に筋弛緩モニターや自動麻酔記録装置の設置を行っており、安全管理の可視化を進めてきた。

3 令和5年度診療実績

令和5年度に於いては市川学医師（医科部長・日本麻酔科学会専門医・麻酔科標榜医）・深澤恵莉医師（日本麻酔科学会専門医・麻酔科標榜医）の2名が診療に当たった。また毎日1名の麻酔科医師の派遣を受け診療に当たった。

令和5年度の手術件数は3503件、麻酔科管理症例は1344件であり近年増加傾向となっている。腹腔鏡手術・ロボット支援下手術も増加しており、高度化する手術に対応した麻酔管理を行うことにより、患者の安全かつ快適な麻酔を提供してきた。

4 令和6年度活動目標

- (1) 重大インシデント発生ゼロ
- (2) 高度化する手術に対応した安心安全な麻酔の提供

5 学術活動

日本麻酔科学会第70回学術集会参加 市川学・深澤恵莉

歯科口腔外科

1 医師紹介

医師 竹川 貴裕・非常勤医師 上木 耕一郎

2 令和5年度総括

例年通り口腔外科及び長期入院等、院内の患者様の一般診療を行ってまいりました。地域歯科医院からの紹介患者数および手術件数は年々増加傾向にあります。

また、山梨大学医学部附属病院と連携し、積極的な学会参加や発表、論文執筆を行うことができました。

3 令和5年度診療実績

紹介初診 487件(前年度 425件)

全身麻酔手術 48件（前年度 41件）

初診件数、全身麻酔症例は例年に比べて増加傾向でした。また手術内容に関しては抜歯や顎骨に関する手術が大半を占めましたが、観光シーズンのレジャー中の外傷も増加しており、他院と比較しても症例に地域性があるかと思われます。来年度はさらなる手術数の増加や症例の幅を広げるよう、より一層努力して参ります。

4 令和6年度活動目標

本年度の歯科口腔外科の活動目標は、充実した歯科、口腔外科治療の提供と研究、論文執筆による学術的貢献です。患者様および地域歯科医院の皆様の期待に応えられるよう丁寧で医学的根拠に則った正しい診療を日々心掛けて参ります。何かお困りの事がありましたら、いつでも気軽にお電話下さい。

5 学術活動

【英語論文】

- (1) Correlation between acquisition of dental implant stability and Hounsfield units at dental implant placement. J Oral Implantol. 2024 Feb 2. doi:10.1563/aaid-joi-D-22-00233R3

【学会発表】

- (1) 骨格性Ⅱ級、Ⅲ級における手術前後の側頭筋を含む咀嚼筋及び下顎枝形態の変化 第68回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会令和5年11月22-24日. 日本. 大阪
- (2) Computed tomography value and morphological changes of masticatory muscles including temporalis muscle before and after orthognathic surgery in skeletal class II and class III. KAMPRS 2023 Oct. 26. (Korean Association of Maxillofac. Plast. Reconstr. Surg.)